

稲沢市 学校図書館部会 研修会報告

稲沢市教育研究集会は、毎年、市内小中学校の図書館教育担当の教員が集まって開催している。本年度は、「『読みたい』をつなげ、読書に親しむ児童・生徒の育成」～読書の楽しさを知り、本を身近に感じる読書環境づくり～」をテーマに、部員が各自の研究を持ち寄って実践紹介や情報交換、テーマに沿った研究協議を3、4人の小グループでの討議を中心に行った。以下の通り主な内容を報告する。

1 研究協議

(1) 前半の研究協議（各学校の実践報告・情報交換）

各校で行った実践をグループごとに報告し合い、その後、各校の図書館事情など情報交換を行った。

(2) 後半の研究協議（柱立てに沿った研究協議）

《児童・生徒が進んで読書を楽しむことができる魅力的な図書館づくり》

学校図書館で本を手にとろうとしない児童・生徒は一定数いる。これらの児童・生徒に対していかに読書に関心を向けさせるかが話題となった。学校図書館に足を運んでもらう工夫として、季節や行事等に合わせたコーナーを定期的に更新していくことや、読書週間のイベントの工夫、漫画や雑誌を配架するなどの実践が紹介された。その一方で、学校図書館に足を運ばなくても本に親しんでもらうために、学級文庫を充実させたり、廊下にブックトラックを置いたりして様々な方法で本を身近に感じてもらう工夫が紹介された。

また、ポップ等の作成や読書ゆうびん、高学年が低学年に読み聞かせをするなど本の魅力を誰かに伝えたいという気持ちを大切に活動の実践についても数多く紹介された。

《様々な教育活動で進める読書指導》

図書を授業で活用するためには、学習活動の意図に合った図書を数多く集める必要がある。そのために、配本サービスで市立図書館を活用したり司書補と連携してテーマに沿った本を集めてもらったりして活用する実践が紹介された。また、図書を活用した授業が可能な単元を洗い出し、年間計画を作成することで、図書館の活用を学習活動の中に位置付けていくことの必要性が話題となった。読書指導においては、図書館で朝読書を行ったり、味見読書で続きが読みたいという気持ちにさせたりするなど、読書の機会を積極的に設定する事例が紹介された。



2 指導助言

《稲沢市図書館長 塚本ゆかり氏より》

稲沢市立図書館・公民館の図書が貸し出し可能であり、web 予約をすれば、どの施設でも本の受け取りができること、多言語図書や拡大文字の図書、ヤングアダルトブックなど様々な本の蔵書があることを紹介していただいた。

漫画・雑誌であっても、文字を読んで楽しいと思えることが大切ではないか。ブラウジング（本を眺めたり、パラパラとページをめくってみる）をすることで自分の興味のある本を見つけ、本と仲良くなってほしい。

《愛知教育大学 非常勤講師 安田 剛章 先生より》

本を手にするきっかけをいろいろなところに仕掛けていくとよい。本を選んで読むのは自分自身だが、教師は読書のよさを知った上で子どもと接することが大切になる。

今の時代、情報は、すぐ手に入る。本はノイズが多く、忙しい時代になかなか読もうという気にならない。しかし、読書をすることにゆっくり浸ることで、これまで気付かなかった自分が浮かび上がってくる。